

4 企業会計決算の状況

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記方式により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、南勢志摩水道用水供給事業（志摩系：給水能力41,000m³/日、南勢系：給水能力128,150m³/日）、北中勢水道用水供給事業（北勢系木曾川水系：給水能力80,300m³/日、北勢系三重用水系：給水能力51,000m³/日、北勢系長良川水系：給水能力6,400m³/日、中勢系雲出川水系：給水能力81,416m³/日、中勢系長良川水系：給水能力58,800m³/日）はともに順調な給水を行い、それぞれ地域住民の生活環境の向上に寄与しています。

平成16年度の営業成績は、表14、図21及び巻末資料23のとおり、事業収益は、12,529,732千円（対前年度比98.7%）で、内訳は、営業収益11,801,340千円（対前年度比99.9%）及び営業外収益728,392千円（対前年度比82.7%）であり、また、事業費用は11,165,851千円（対前年度比95.9%）で、内訳は、営業費用7,926,696千円（対前年度比100.2%）及び営業外費用3,239,155千円（対前年度比86.8%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額1,363,881千円（対前年度比130.6%）が当年度の純利益となりました。また、バランスシート（貸借対照表）については、図22及び巻末資料23をご覧ください。

なお、事業収益と事業費用の年度別の推移については、図23及び巻末資料24をご覧ください。

方、建設事業は平成10年度から北中勢水道用水供給事業（北勢系第2次拡張事業長良川水系、総事業費36,100,000千円、給水能力47,600m³/日）及び伊賀水道用水供給事業（総事業費27,927,000千円、給水能力28,750m³/日）の建設に着手しています。

北中勢水道用水供給事業では、全部給水時期の5年延伸に伴い、将来の受水負担をできる限り抑えることに配慮し、当面、施設整備を必要最低限で実施する措置を講じました。

伊賀水道用水供給事業では、水資源機構が施工する川上ダム建設事業の進捗が遅れていることから、関係者と連携を取りながらダム建設事業の進捗に合わせた施設整備を実施しました。

表 14 平成 16 年度損益計算書 (平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位: 千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	7,926,696	営業収益	11,801,340
原水及び浄水費	2,633,272	給水収益	11,796,386
配水費	441,480	その他営業収益	4,954
業務費	413,599		
総係費	408,044		
減価償却費	3,982,830		
資産減耗費	47,471		
営業外費用	3,239,155	営業外収益	728,392
支払利息	3,225,420	受取利息	350
受託工事費	13,611	他会計補助金	711,167
雑支出	124	受託工事収益	13,611
		雑収益	3,264
当年度費用合計	11,165,851		
当年度純利益	1,363,881		
合 計	12,529,732	合 計	12,529,732

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

図 21 平成 16 年度損益計算書 < P / L > (平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位: 千円、% [構成比])

借 方	貸 方
営業費用 7,926,696 (63.3%)	営業収益 11,801,340 (94.2%)
営業外費用 3,239,155 (25.8%)	営業外収益 728,392 (5.8%)
当年度純利益 1,363,881 (10.9%)	

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

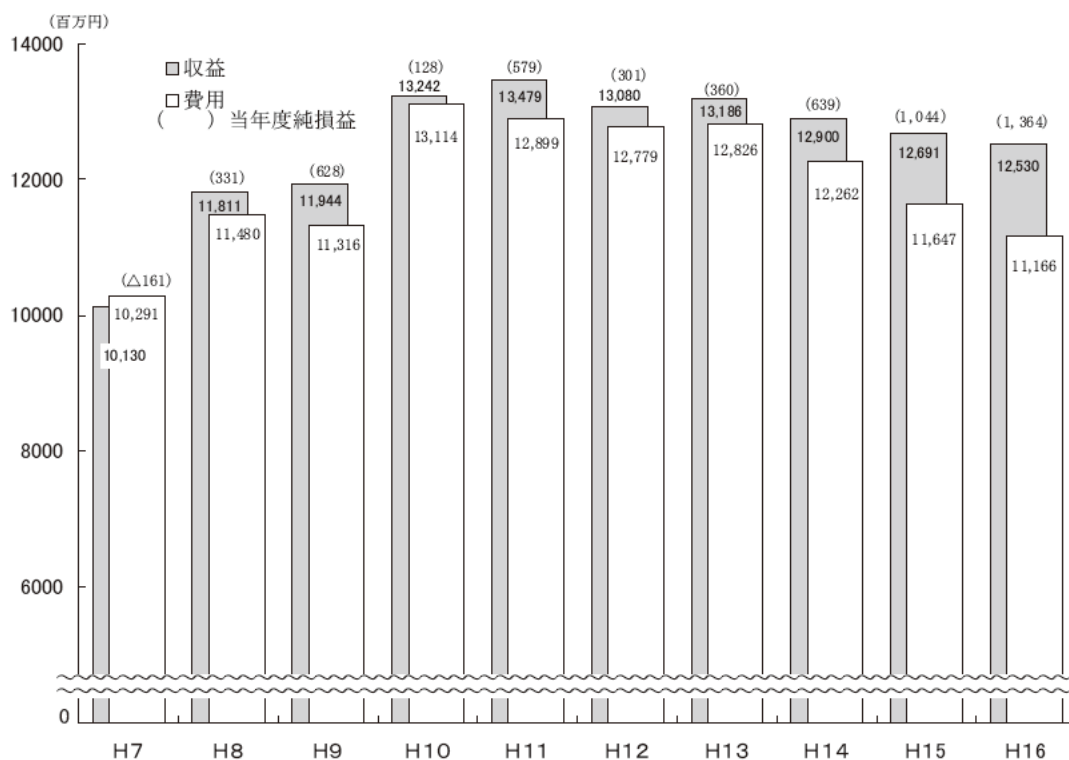
図22 貸借対照表<B/S> (平成17年3月31日現在)

(単位：千円、% [構成比])

借方	貸方
固定資産 177,261,392(94.3%)	固定負債 17,713,303(9.4%)
	流動負債 776,488(0.4%)
流動資産 10,708,867(5.7%)	資本金 120,765,683(64.3%)
	剰余金 48,714,785(25.9%) 資本剰余金 47,344,421 利益剰余金 1,370,364

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

図23 年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため差引が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 699,360 m³/日）、多度工業用水道事業（契約水量 8,000 m³/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 19,590 m³/日）、松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m³/日）の4事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、平成16年度においては99工場に対し、延べ233,722,345 m³の工場用水を供給しました。

平成16年度の営業成績は、表15、図24及び巻末資料23のとおり、事業収益は、6,534,493千円（対前年度比98.7%）で、内訳は、営業収益6,523,986千円（対前年度比99.5%）、営業外収益6,051千円（対前年度比10.7%）及び特別利益4,456千円（対前年度比61.9%）であり、また、事業費用は5,731,632千円（対前年度比99.3%）で、内訳は、営業費用4,770,755千円（対前年度比102.8%）及び営業外費用960,877千円（対前年度比85.1%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額802,861千円（対前年度比94.4%）が当年度の純利益となりました。また、バランスシートについては、図25及び巻末資料23をご覧ください。

なお、事業収益と事業費用の年度別の推移については、図26及び巻末資料24をご覧ください。

方、改良事業については、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽劣化施設の更新、補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

表15 平成16年度損益計算書（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	4,770,755	営業収益	6,523,986
原水及び浄水費	1,642,365	給水収益	5,987,716
配水費	120,111	その他営業収益	536,270
業務費	246,914		
総係費	371,457		
減価償却費	2,199,835		
資産減耗費	190,071		
営業外費用	960,877	営業外収益	6,051
支払利息	960,805	受取利息	2,986
雑支出	72	雑収益	3,065
当年度費用合計	5,731,632	特別利益	4,456
当年度純利益	802,861	固定資産売却益	4,456
合 計	6,534,493	合 計	6,534,493

（四捨五入のため合計に合わない場合があります）

図24 平成16年度損益計算書<P/L> (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(単位: 千円、% [構成比])

借方	貸方
営業費用 4,770,755 (73.0%)	営業収益 6,523,986 (99.8%)
営業外費用 960,877 (14.7%)	営業外収益 6,051 (0.1%)
当年度純利益 802,861 (12.3%)	特別利益 4,456 (0.1%)

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

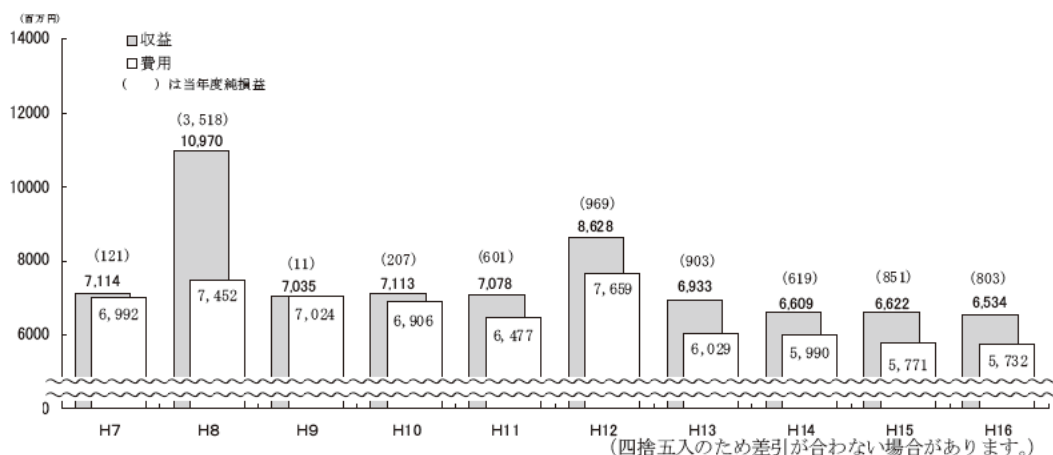
図25 貸借対照表<B/S> (平成17年3月31日現在)

(単位: 千円、% [構成比])

借方	貸方
固定資産 121,533,155 (91.0%)	固定負債 16,829,353 (12.6%)
	流動負債 673,916 (0.5%)
流動資産 12,048,670 (9.0%)	資本金 75,100,330 (56.2%)
	剰余金 40,978,226 (30.7%) 資本剰余金 40,174,649 利益剰余金 803,577

(四捨五入のため合計に合わない場合があります。)

図26 年度別の総収益・総費用の推移



3 電気事業の概況

営業関係では、平成 16 年 8 月の台風 10、11 号及び 9 月の台風 21 号の影響による集中豪雨のために水力発電所が大きな被害を受け、長、宮川第一、宮川第二、宮川第三、三瀬谷、青蓮寺、大和谷、蓮、青田及び比奈知の 10 発電所（最大出力 97,800kW）全てが、一時運転を停止しました。その結果、平成 16 年度の発電量は、目標電力量 319,173,000kWh に対し、供給電力量 225,950,065kWh（70.8%）となりました。また、三重ごみ固形燃料発電所は、平成 16 年 3 月 26 日から 8 月 5 日まで試運転を行い、長期的な安定運転の確認及び施設の改修効果の検証を行った後、9 月 21 日から運転を再開しました。この結果、29,185t の R D F を焼却し、34,965,900kWh の発電を行いました。

平成 16 年度の営業成績は、表 16、図 27 及び巻末資料 23 のとおり、事業収益は、3,108,507 千円（対前年度比 68.7%）で、内訳は、営業収益 2,513,498 千円（対前年度比 89.6%）、附帯事業収益 442,382 千円（対前年度比 57.0%）、営業外収益 150,816 千円（対前年度比 16.0%）及び特別利益 1,811 千円（対前年度比 皆増）であり、事業費用は、3,652,043 千円（対前年度比 75.0%）で、内訳は、営業費用 2,165,359 千円（対前年度比 99.5%）、附帯事業費用 1,029,027 千円（対前年度比 76.6%）及び営業外費用 457,657 千円（対前年度比 33.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額 543,536 千円が当年度の純損失となりました。また、バランスシートについては、図 28 及び巻末資料 23 をご覧ください。

なお、事業収益と事業費用の年度別の推移については、図 29 及び巻末資料 24 をご覧ください。

その他、平成 9 年度からの継続事業である川上発電所建設事業（総事業費 1,705,698 千円・最大出力 1,200kW）は、ダム事業費負担金等を執行しました。また、宮川ダム維持放流設備建設事業（最大出力 220kW）は、三重県県土整備部が建設する選択取水設備建設工事の建設費負担及び宮川ダム維持放流発電設備設置工事の平成 16 年度分を実施しましたが、台風 21 号の影響による災害のため工事の進捗に遅れが生じ、平成 16 年度の完成予定を 1 年延期し、平成 17 年度となる見込みです。

表16 平成16年度損益計算書（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	2,165,359	営業収益	2,513,498
宮川第一水力発電費	147,740	電力料	2,510,537
宮川第二水力発電費	210,614	その他営業収益	2,961
宮川第三水力発電費	78,293		
長水力発電費	63,216		
三瀬谷水力発電費	620,717		
大杉貯水池費	174,369		
青蓮寺水力発電費	19,026		
大和谷水力発電費	167,721		
蓮水力発電費	116,609		
青田水力発電費	117,090		
比奈知水力発電費	59,486		
一般管理費	390,478		
附帯事業費用	1,029,027	附帯事業収益	442,382
RDF焼却発電費	1,029,027	電力料	240,028
		その他附帯事業収益	202,354
営業外費用	457,657	営業外収益	150,816
支払利息	387,971	受取利息	13,839
受託事業費	29,404	受託事業収益	29,404
雑支出	40,281	雑収益	107,574
		特別利益	1,811
		その他特別利益	1,811
		当年度収益合計	3,108,507
		当年度純損失	543,536
合 計	3,652,043	合 計	3,652,043

（四捨五入のため合計が合わない場合があります。）

図 27 平成 16 年度損益計算書<P/L>（平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日）

（単位：千円、%〔構成比〕）

借 方	貸 方	
営業費用 2,165,359 (59.3%)	営業収益 2,513,498 (68.8%)	
附帯事業費用 1,029,027(28.2%)	附帯事業収益 442,382 (12.1%)	営業外収益 150,816(4.1%)
営業外費用 457,657(12.5%)	当年度純損失 543,536 (14.9%)	
		特別利益 1,811(0.1%)

（四捨五入のため合計に合わない場合があります。）

図28 貸借対照表<B/S> (平成17年3月31日現在)

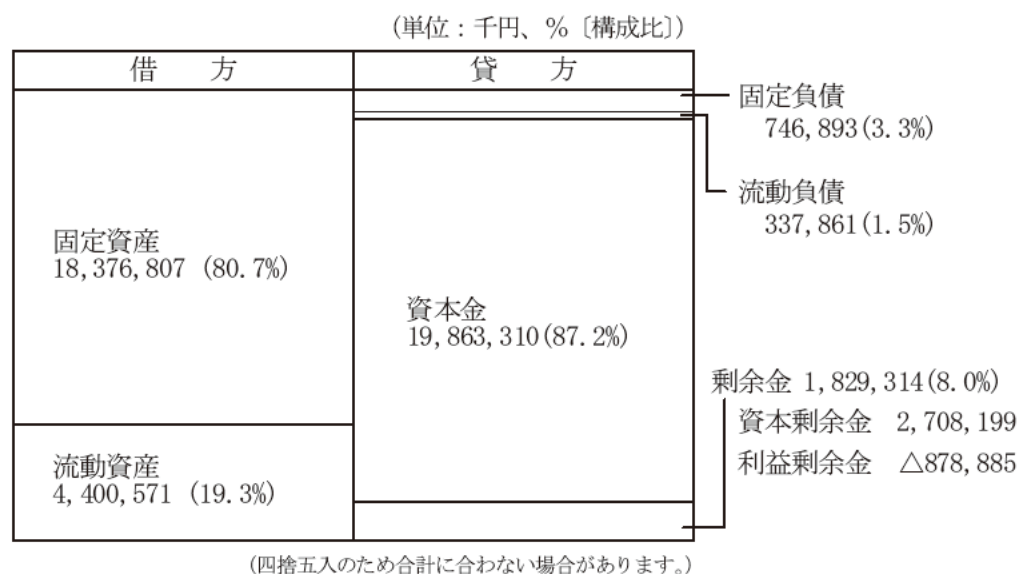
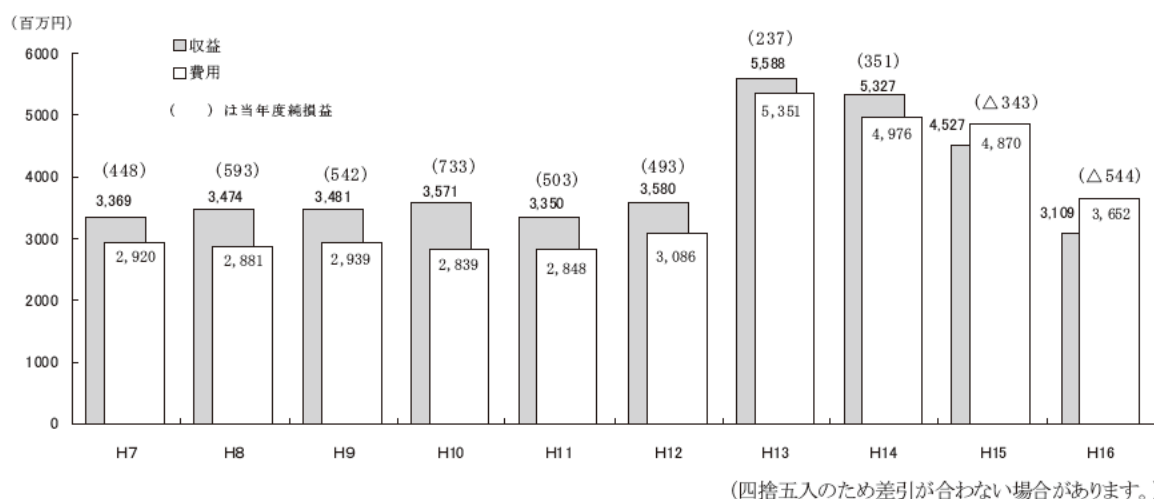


図29 年度別の総収益・総費用の推移



4 病院事業の概況

三重県病院事業は、総合医療センター、こころの医療センター、志病院及び志摩病院の4病院を運営し、県民の健康で文化的な社会の実現に貢献するため、良質で満足度の高い医療の継続的な提供に努めております。平成16年度は、2次6か年におたる経営健全化計画（平成10年度～15年度）を終え、新たに「三重県病院事業中期経営計画」（平成16年度～18年度）をスタートさせました。その中で、三重県保健医療計画に明記された県立病院としての4つの役割（①医療提供の視点、②人材育成の視点、③先進的な取組の視点、④安全・安心をささえるセーフティーネットの視点）を果たすべく、平成14年度から導入している新しいマネジメントシステム（バランス・スコアカード）を活用し、各病院の経営方針の徹底及び全職員参画型の経営に取り組み、各病院毎の自立経営を推進してまいりました。また、病院の自立経営には病院毎の財務内容の公表が前提となるため、平成15年度決算において未処理欠損金17,392,542,674円全額を資本剰余金により相殺・解消し、財務内容の透明性向上を図るとともに、各病院単位の貸借対照表を作成し、当年度決算から公表することとしました。

平成16年度における患者の利用状況は、入院患者が延べ397,489人（1日平均1,089人）、外来患者が414,654人（1日平均1,706人）で前年度に比べ、入院患者は、延べ17,649人の減少、外来患者は、延べ41,705人の減少となりました。

平成16年度の営業成績は、表17、図30及び巻末資料23のとおり、医業収益は146億1,004万3千円、医業費用は169億7,846万8千円で、差引きした医業損失は23億6,842万5千円となりました。

これに他会計補助金等の医業外収益31億8,682万円と企業債利息等の医業外費用12億9,041万5千円を加減した経常収支は、4億7,202万円の赤字となりました。また、過去に引き当てるべきであった退職給与引当金の計上等による特別損失を2億3,985万1千円計上しました。

以上の結果経営収支は、総収益が177億9,686万3千円、総費用が185億873万4千円で、7億1,187万1千円の純損失を計上し、前年度に比べ7億2,020万8千円の減益となりました。また貸借対照表（バランスシート）については、図31及び巻末資料23をご覧ください。

なお、総収益と総費用の年度別の推移については、図32及び巻末資料24をご覧ください。

また、施設及び設備の整備については、志摩病院の新外来棟建設事業やこころの医療センターにおける保護室増床工事、診療機能の充実・強化を図るための高度医療機器等の導入を実施し、4病院で総額8億7,349万9千円を執行しました。

表17 平成16年度損益計算書（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

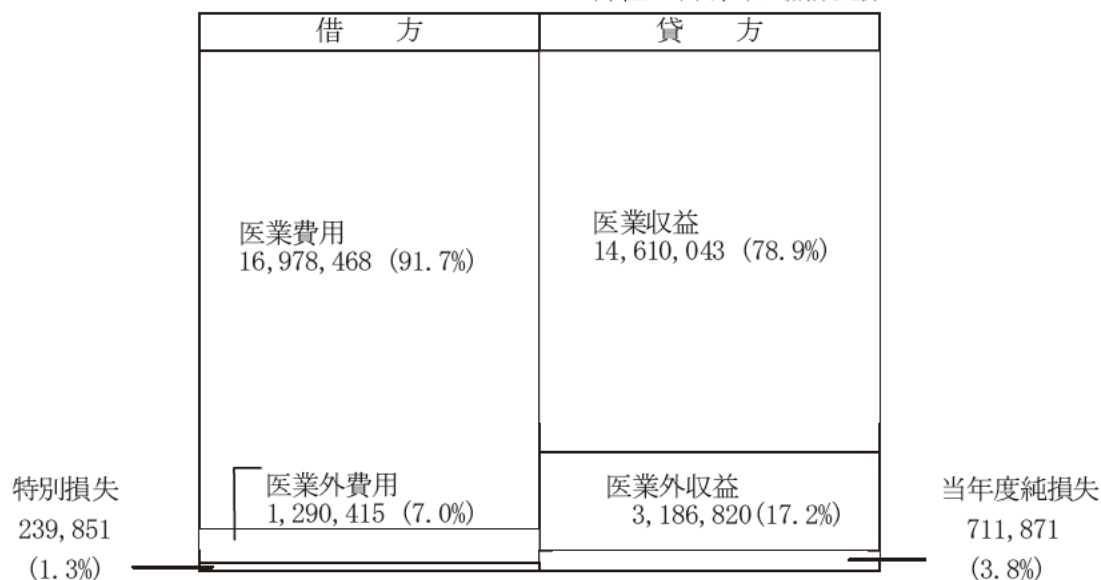
（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	16,978,468	医業収益	14,610,043
給与費	9,526,747	入院収益	10,724,354
材料費	3,283,584	外来収益	3,571,362
経費	2,492,993	その他医業収益	314,327
減価償却費	1,558,983		
資産減耗費	55,279		
研究研修費	60,881		
医業外費用	1,290,415	医業外収益	3,186,820
支払利息及び企業債取扱諸費	916,071	受取利息配当金	495
繰延勘定償却	68,772	他会計補助金	431,036
患者外給食材料費	2,092	補助金	90,317
雑損失	303,481	負担金	2,529,575
		その他医業外収益	135,398
特別損失	239,851	当年度収益合計	17,796,863
		当年度純損失	711,871
合 計	18,508,734	合 計	18,508,734

（四捨五入のため合計に合わない場合があります。）

図30 損益計算書<P/L>（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（単位：千円、%〔構成比〕）



（四捨五入のため合計に合わない場合があります。）

図31 貸借対照表<B/S> (平成17年3月31日現在)

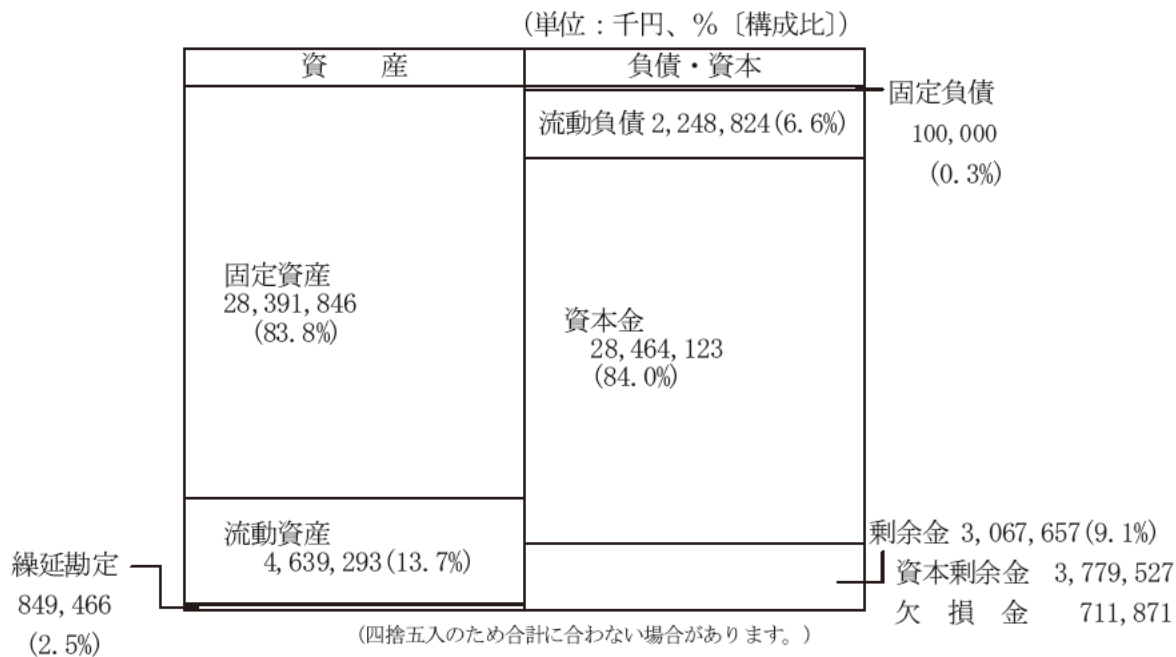


図32 年度別の総収益・総費用の推移

